

News Letter



第15回リハビリテーション栄養学会学術集会情報

実行委員長 神野 俊介（一般社団法人オーディナリーライフ）



今回はリハ栄養学会金沢大会の主要プログラムをご紹介します。大会テーマ「リハビリテーション栄養で支えるレジリエンスーリハ栄養の真の実践を目指してー」のもと、充実したプログラムが出来上がってまいりました。

特別講演では、今大会顧問の大村健二先生、および大村先生の旧友である真田弘美先生（石川県立看護大学学長）にご登壇いただきます。金沢にゆかり深い第一人者のお二方に今大会でお話いただく意義はとても大きいものと思っております。また若林秀隆先生・藤原大先生による新旧理事長対談では、リハ栄養のこれまでとこれからについて語っていただく予定です。

今大会の特別企画としまして、チーム対抗戦方式でのリハ栄養臨床推論を開催いたします。精鋭メンバー同士による白熱のディスカッションが交わされることと思います。優勝チームには、大村先生より「リハと栄養はベストカップル」に続く新たな名文句を認めた色紙と、金沢の夜をお楽しみいただくための副賞（賞金）が授与されますので、ぜひご注目くださいませ。

教育講演では、前田圭介先生にはエビデンスとプラクティスのギャップについて、西岡心大先生にはリハ栄養のはじめの一步についてお話いただきます。中西信人先生（神戸大学病院）には骨格筋エコー・筋骨格評価についてご教示いただきます。さらに、摂食嚥下リハの大家である藤島一郎先生（浜松市リハビリテーション病院特別顧問）に現場での実践の一端をオンデマンドにてご紹介いただくこととなりました。いずれも先生方の豊かな臨床知に触れることができ、明日からの実践に役立つことと思います。

石川県災害復興ジョイント企画として、石川県栄養士会・能登NST研究会と合同での震災関連セッションを行います。期せずして被災県となりました石川の地で、大会テーマ「真の実践」「レジリエンス」について、参加者の方々と一緒に考える時間となりましたら幸いです。また、お隣の富山県にて、長きにわたり地域に根付いた活動を行っている北陸の摂食嚥下ケアを支える会とのコラボレーションを予定しております。

その他にも、金沢らしく趣ある茶室を用いた心のリハ栄養企画、リハ栄養オンラインコミュニティ企画、大会史上初となる4会場でのランチョンセミナー、大会前日の2題のイブニングセミナーなど、彩りあるプログラムが多数決定しております。

「2026年のホワイトデイは金沢で！」

たくさんの方々のご参加を、心よりお待ち申し上げます。



学術集会 HP



会員マイページコンテンツでの動画配信

大阪大学医学部附属病院 橋田直



日本リハビリテーション栄養学会では、会員の皆様の学術的発展と実務能力の向上を目的として、会員マイページ内での動画コンテンツ配信を今後予定しております。配信される動画は、出演者から配信の同意を得られた日本リハビリテーション栄養学会学術集会での特別講演や教育講演の動画や、学会員が演者を務めた研修会・学習会での講演、さらには教育委員会が企画する教育目的の動画など、多様な内容を想定しています。いずれも、出演者の同意を得た上で、教育・研究に資するコンテンツとして準備を進めております。

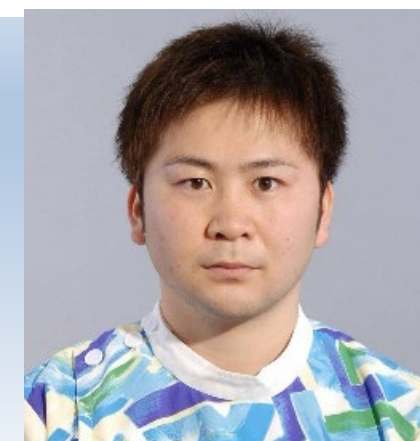
配信開始後は、原則として約24か月間の視聴が可能となる予定で、学術集会動画、研修会・楽手会動画は講演終了後6か月を目安に順次公開していく予定にしています。

準備が整い次第、会員マイページより視聴いただけるようになりますので、今後の情報発信にぜひご注目ください。

またリハビリテーション栄養学会では月1本ペースで臨床研究に関わる動画もYouTubeに配信しています。臨床研究の基礎的なFINERなPECOの作り方や査読のお作法の動画などが現在までに配信されており、今後も増えていく予定です。そちらも同時にお楽しみください。

リハ栄養フォーラム2025案内

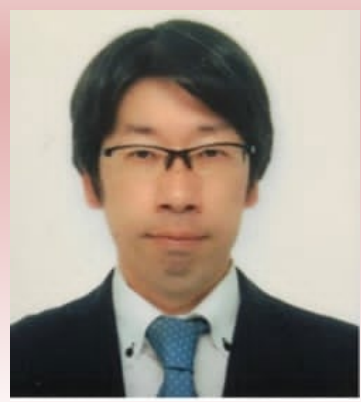
群馬大学医学部附属病院 看護部 市川佳孝



2025年のリハ栄養フォーラムは、7月12日(土)に仙台、8月2日(土)に福岡で開催されます。今年のテーマは「リハ栄養を進める、広げる」です。私は仙台会場(7月12日)で、「看護師が考えるリハ栄養を広げるための取り組み」と題してお話しさせていただきます。急性期病棟に勤務する看護師として、日々の臨床現場で感じている課題や、実践的な取り組みについてご紹介するとともに、地域の多職種と連携しながら行っている「歩き続ける足作り(サルコペニア・フレイル予防)」をコンセプトに行っている『ぐんま足人の会』の取り組みについてもご紹介させていただきます。「看護師にできることは何か?」「看護師だからこそ見える視点は何か?」こうした現場での苦悩や葛藤、工夫や成功体験などを皆様と共有し一緒に考える時間にしたいと思っています。

リハ栄養を「広げ」「進める」ためには一人一人の意識と行動の積み重ねが大切です。すでに実践している方も、これから取り組めたい方も、きっと新たな気づきや明日からの臨床に活かせるヒントが見つかる時間になるはずです。講師陣一同、皆様と直接お会いできることを心より楽しみにしております。

是非、会場でお会いしましょう。



TNT-Rehabilitation 研修会案内

順天堂大学医学部附属順天堂医院 薬剤部 小瀬 英司

TNT-Rehabilitation研修会が2025年9月27日(土)、アボットジャパン三田本社にて開催されます。本研修は、リハビリテーション栄養を体系的かつ実践的に学べる貴重な機会です。講義では、「なぜリハ栄養なのか？」をはじめ、「リハ栄養ケアプロセス」、「リハ栄養診断」、「リハ栄養ゴール設定とリハ栄養介入」、「PEWや悪液質」、「サルコペニアの摂食嚥下障害」と臨床に直結するテーマを網羅。これまで蓄積されたリハ栄養の知見を整理し、臨床実践の質を高めます。さらに、誤嚥性肺炎・脳卒中・大腿骨近位部骨折・悪性腫瘍を題材にしたケーススタディにより、現場での具体的な支援方法を深く学ぶことができます。講師陣には各分野の第一線で活躍する専門家を迎え、質の高い講義と実践的な演習を提供します。本研修会は「リハビリテーション栄養指導士」認定取得の条件にもなっており、スキルアップを目指す方に最適です。多職種の参加を歓迎しますので、職種を超えた学びと交流を深める場としてもぜひご活用ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



-書籍紹介-

脳卒中と栄養ケア Nurture(ナーチャー) 内橋 恵

『フレイル・サルコペニア予防！在宅でできる生活リハビリテーション・栄養管理のポイント』は、在宅ケアの現場で培った訪問看護師の知見をもとに、「こんな本があれば」と願って生まれた実践的ガイドです。编者自身が訪問看護を通じて感じた、生活リハの力を活かすことが生活機能の改善につながるという思いから、熊本リハビリテーション病院のサルコペニア・低栄養研究センター長 吉村芳弘先生のご協力を得て企画しました。

看護師が知っておくべき栄養評価やフレイル・サルコペニアの基礎知識に加え、清拭・排泄介助など生活期のケアに沿った具体的なリハを、多くのイラストを使ってわかりやすく解説しています。訪問看護師を主な対象としながらも、すべての看護師に役立つ内容です。A5サイズで持ち運びやすく、右端に項目名を表示するなど、随所に現場で使いやすい工夫もしています。生活を支えリハ看護の力を高める一冊として、ぜひ手元に置いて活用してください。

読み進めるたびに、「あ、これ明日使える！」と感じられる心強いパートナーになることでしょう。



-論文紹介-

石巻赤十字病院 医療技術部 栄養課 後藤美紅



Consumption of ultra-processed foods can accelerate age-related appearance of sarcopenia. Hatice Parlak Baskurt et al. Biogerontology.2025;26(3):112. doi:10.1007/s10522-025-10253-8

本論文は、超加工食品の摂取はサルコペニアの出現を加速させるという総説です。

超加工食品は、菓子パンやカップ麺、冷凍食品など、複数の食材を工業的に配合して作られた、加工の程度が非常に高い食品です。超加工食品の多い食生活は、栄養不足を招き、タンパク質やビタミンA、C、E、亜鉛、セレン、鉄など多くの栄養素の摂取量が低下します。さらに抗酸化物質の乏しい食事は、炎症を増加させ、サルコペニアのリスクを高める可能性があります。特に経済的に困窮した方だと、比較的安価で、満足が得られやすく、容易に手に入りやすいコンビニ弁当や菓子パンなどの食品を利用する方も多いと考えます。さらに、車の運転ができない、所有していない、公共機関数の少ない地域だと、買い物に行くことさえ不便に感じている方は、よりコンビニは利用しやすいでしょう。高齢化社会が進むにつれ、こういった問題は増えてくると考え、超加工食品の利用者数も増大することが見込まれます。摂取量の割合を減らすには、社会・経済的背景を踏まえた上で、添加物や食事バランスを踏まえた上で食事管理を行い、ネットスーパーの紹介や、介護・福祉とのつながりを持つことが重要だと考えます。

-リハ栄養実践報告-

上尾中央総合病院 リハビリテーション技術科 川邊祐子



当院は埼玉県県央医療圏の基幹病院です。わが国でトップクラスの診療行為を行う診療科が多く、それを支えるメディカルスタッフの多職種連携も極めて円滑で、週に4回行われるNST回診には、医師、管理栄養士、PT、ST、OT、看護師、臨床検査技師が参加し、ハイレベルなディスカッションが行われています。2025年2月からは脳血管疾患病棟を対象にリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算の算定を開始しました。現在PT151名、OT49名、ST20名が在籍しており、この豊富な人的資源が当院リハビリテーションの何よりの強みですが、より質の高いレベルを目指すリーダー育成の必要性を感じていました。そんななか、2023年に「東京リハ栄養ネットワーク研究会」の取り組みを知り、2024年「埼玉リハ栄養ネットワーク研究会」を立ち上げました。2025年は8月24日に開催予定です。原則、埼玉在住・在勤者対象を対象とし、午前中にグループディスカッション・取り組み紹介・講演、昼から懇親会のスタイルで年に1回、夏に開催しています。より良いリハ栄養の提供を模索されている方々とともに勉強や情報交換、親交、日々の悩みの共有などができるとても有意義な場となっています。

今月の数珠つなぎ

中部ろうさい病院 栄養管理部 森山 大介



毎号一人、①リハ栄養に関すること ②前者からの質問（お題は自由）の2項目について語っていただきます！

今回の数珠つなぎは、前回の富山県リハビリテーション病院 こども支援センター ST亀谷浩史さんからのMBです。

①リハ栄養との出会い

リハ栄養との出会いは10年以上前、回復期リハ病院に勤務していた頃でした。多職種と連携しながら、患者さんの栄養状態や身体機能の改善に取り組み、一定の手応えを感じていましたが、若林先生の講演を聴き、「もっと良くてできるのでは」と思うようになりました。リハと栄養の重要性は当時からなんとなく意識していましたが、それを理論として整理された「リハ栄養」の考え方に触れ、実践の方向性が明確になったと感じました。その後は職種の枠を越えて連携を深めながら、実践を重ねてきました。現在は急性期病院に勤務し、ここでも多職種と連携しながらリハ栄養を行っています。リハ栄養を通じて院内外が多職種との関わりも広がり、気づけば全国にかけがえのない仲間ができました。そのつながりは、今の私の臨床・研究活動の大きな支えとなっています。

②現在の取り組み

現在、急性期病院にてリハ栄養の実践に取り組んでいます。特にNSTでリハ医と連携しながら、急性期だからこそ重要となる早期のリハと栄養介入を行い、「攻めのリハ栄養」の実践を進めています。栄養管理がリハの質を左右することを意識し、日々の臨床に取り入れています。

次回はあなたかも知れません…。MBの矢が当たった際には、「はい！よろこんで！！」のお返事をよろしくお願い致します。

2025年度 日本リハ栄養学会 年間行事予定

日程	行事名
2025年7月12日	リハ栄養フォーラム2025(仙台)
2025年7月19～20日	研究デザイン学習会(東京) ※申し込み終了
2025年8月1日(予定)	会員限定 動画コンテンツ開始
2025年8月1～31日	代議員申請受付
2025年8月2日	リハ栄養フォーラム2025(福岡)
2025年9月27日	TNT-rehabilitation(東京)
2025年9月1～30日	リハ栄養指導士の新規認定申請受付
2025年12月1～25日	リハ栄養指導士の認定更新申請受付
2026年3月14日	第15回日本リハビリテーション栄養学会学術集会(金沢市文化ホール)
2026年3月15日	TNT-rehabilitation(石川)

※日程は変更する可能性があります

編集後記



梅雨の合間に、時折差し込む初夏の日差しが心地よく感じられる季節となりました。今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。リハ栄養の現場では多職種連携の大切さや、日々の小さな工夫が患者さんの大きな変化につながることを改めて実感しました。リハ栄養を進め、広げていく一助となれば幸いです。次号もどうぞお楽しみに。

東葛クリニック認定栄養ケア・ステーション松戸 高崎美幸